

## 近畿地方の農家集落におけるフラワーランドスケープの持続可能性に関する調査研究

Field Study of Sustainability of the Flower Landscape at Farm Villages in Kinki District

白砂 伸夫\*

Nobuo SHIRASUNA

**Abstract:** The scenery of farm villages in Japan where the helianthus all over, remains in people's minds as traditional. This research investigate the plants and planting techniques of flower landscape in four farm villages. The features of the flower landscape of these farm villages are maintained with low maintenance and a low cost, though a beautiful spectacle is formed every year continuously. The kind of plants grown are perennial plants that grow maintenance free, weeded by long-term cultivation and annual plants that breed by spill seeds by natural selection. The sustainability of the flower landscape is kept by the character of these plants. Moreover, the cultivation method is an original planting technique of farm villages with high density planting for a variety of plants. This planting technique encourages diversity, and the flower landscape changes at each of the four seasons. It is thought that the planting technique of these farm villages can be applied to a sustainable flower landscape for planning and the parks.

**Keywords:** *flower landscape, sustainability, farm villages*

**キーワード:** フラワーランドスケープ, 持続可能性, 農村

### 1. はじめに

フラワーランドスケープには明確な定義はないが、拙論では、花が風景の中で一定のボリュームや連続性を持つことにより、景観を構成する要素として機能し、またふるさと性を与えてくれる原風景<sup>1)</sup>を形成することもある、その土地の風土に根ざした花の作り出す風景をフラワーランドスケープと定義する。都市の景観形成や地域のコミュニティづくりの一環として花づくりは定着しつつあるが、農村においても庭や畑で草花が栽培され、フラワーランドスケープが展開している。農村は農業生産の場であるとともに、日本の原風景を構成する重要な空間でもある。真夏に咲誇るヒマワリやコスモスが咲き乱れるフラワーランドスケープは、季節の変化に伴い花の種類も入れ替わり農村の風景に彩りを添えている。農村のフラワーランドスケープは農業と農家の生活の延長上に形成され、農村独自のフラワーランドスケープが展開していると考えられる。しかしこのフラワーランドスケープを維持しているのは高齢化した農家の主婦層であり、世代交代、ライフスタイルの変化にともない、農村のフラワーランドスケープも変質していく可能性もある。この研究では、農村のフラワーランドスケープの構成、植栽されている植物の種類と栽培手法を調査分析することで、長年にわたって維持されてきた農村のフラワーランドスケープの持続可能性を明らかにするものである。

### 2. 研究方法

#### (1) 研究対象となる農家集落の選定

研究を開始するにあたり、2010年より近畿地方の農家集落を幅広く下調査をおこない、研究対象となりうる集落を選定した。フラワーランドスケープは集落により、盛んなところもあればそうでないところもある。比較的昔からの農村形態を保持し、フラワーランドスケープを形成している集落を選定した。選定にあたり、ほぼ同規模の農家が集落を形成し、同様の日照条件、平坦地に近い立地条件を有する3県の4カ所の集落からそれぞれ5軒の農家を抽出し、計20軒を調査対象とした。それらは集落的なスケールで、連続するフラワーランドスケープを形成している5軒の農

家である。4カ所の調査地は草種の生育度と分布を比較検討するためにほぼ同様の気候域に属する地域である。

#### (2) 調査方法

集落におけるフラワーランドスケープは季節ごとに変化するもので、秋期は2010年の10-11月、冬期は2011年の1-2月、春期は2011年の4-5月、夏期は2011年の7-8月の四季それぞれに調査をおこない、植栽されている植物の種類、開花状況を調査した。さらにそれぞれの農家にヒアリング調査を実施し、栽培者、栽培の目的、維持管理、費用について分析した。

#### (3) 農家集落の概要

調査した農家集落は、滋賀県近江八幡市安養寺町（以下、安養寺町の集落）、京都府京都市右京区嵯峨観空寺（以下、観空寺の集落）、京都府南丹市美山町北村（以下、北村の集落）、兵庫県篠山市丸山（以下、丸山の集落）の4カ所である（図-1）。安養寺町、観空寺の集落は平地に位置し、北村と丸山の集落は山間地に位置している。安養寺町の集落は明治期の日野川の洪水により、平地部から丘陵地に集落全体が移転し、現在のような3.7haに54軒の集約的な集落である。観空寺の集落は嵯峨野の歴史的風土特別保存地区に隣接する第一種低層住居専用地区であり、住宅開発が進行している40軒程度の集落である。北村の集落は茅葺きの里として重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、観光地化している約50軒の集落である。丸山の集落は丁寧維持管理されているが、過疎化が進行し不在地主となっている農家やホテルに転用された農家のある12軒の集落である。

### 3. 結果

#### (1) 農家の空間構成

調査した4つの集落の農家は形状や部分的な差異はあるが、概ね共通した空間構成を示し、住居、住居に隣接する畑、農業生産のための田畑の3つの場所から構成されている。住居は母屋、小屋、にわ、前栽からなり4つの集落全てにはほぼ共通する。

1) にわ：母屋に南面する農作業の場であったが農作業の機械化が進み、現在は駐車場や花壇に転用されている。

\*神戸国際大学 経済学部 都市環境・観光学科

2) 前栽：座敷の前にしつらえられた石組み、灯籠、樹木などにより構成された庭園であり、塀や生け垣で囲われた独立した空間であることが多い。前栽のない農家もみうけられる。

3) 住居に隣接する畑：住宅に隣接する自家消費用の畑であり、野菜を中心にクリ、モモ等の果樹、サンショウ等の樹木類、草花が栽培されている。この畑の担当は農家の主婦であることが多い。

4) 農業生産のための田畑：農業生産のための水田、畑であり、大面積を必要とするため集落外にあることが多い。どの地域も農業生産のための田畑を畑と称しており、場所ごとに名称をつけ区別しているところもある。

### (2) 花の栽培者と目的

調査の結果、花の栽培者は全員が女性であり、日常的に農作業をおこなっている50～70歳代の主婦層である。30代の若い主婦の参加は安養寺町の農家の1軒だけであった。図-2は花づくりの目的を調査したものであり、複数回答によると、回答者20軒のうち18軒(90%)が花づくりの楽しみと回答している。また回答者のうち16軒(80%)が生活に必要な盆や日常の供養花として花を栽培していると回答している。住居や集落の修景のために花を栽培していると、はっきり意識しているものは回答者のうち8軒(40%)であり、「家の周りを美しくしておきたい」というように回答している。現地を調査したすべての農家において、花壇の位置が集落の道路沿いや玄関まわりに配置されているのは、花づくりが住居や集落を修景する機能を有することを住民が認識していると考えられる。図-3は美山町北村の道路と家屋、畑、花壇の位置を示しており、道路にそって花壇がつけられている様子を読み取れる。また観光地化の進んでいる北村の農家5軒のうち2軒が70代の主婦が一人で家を守っており、観光客から「花づくりを褒めてもらうことが生き甲斐」になっているように、花を栽培し、人に見てもらうことが花づくりの楽しみに繋がっているといえる。

### (3) 植栽されている植物と特徴

#### 1) 植物の種類

4地区20軒の農家で花壇と隣接する畑で栽培されている植物とその特性を表-1としてまとめた。栽培されていた草種は169種あり、そのうち、1,2年草が34種、宿根草が135種である。宿根草が80%を占め、調査した集落の主なフラワーランドスケープの構成種であることがわかった。4カ所の集落に共通して栽培されていた植物は1,2年草8種、宿根草24種の32種であり、これらの宿根草は同じような気候域であれば、近畿地方以外でも持続的に栽培できる草種であると推測できる。日本の在来種、あるいは古来より栽培されている草種は45種あり、草種全体の27%を占め、農家の庭には日本の在来種が多く栽培されていることがわかる。調査年度に新たに購入された草種のほとんどは1,2年草であり、花の少ない時期に補植されるパンジー、ニチニチソウ、ペゴニアなどの花苗と、供養花として利用されるヒャクニチソウ、センニチコウ、アスターなどの種子であり、これらは畑で栽培されることが多い。宿根草でこの年に新たに購入されたものはなかった。

#### 2) 植栽されている植物の特徴

宿根草は農家で経年的に栽培されているもの、あるいは近所からの貰い物を繁殖、植栽しているものがほとんどであることから、農家で栽培されている宿根草はローメンテナンスで繁殖できる草種が選択的に残っている。表中のアルストロメリアは一般に販売されている園芸品種は、品種改良の結果ほとんど宿根することは困難であるが、農家で栽培されているものは古い品種であるか、もしくは長年栽培されている間に先祖帰りし<sup>2)</sup>、宿根するようになったものであると考えられる。このような現象は1年草のピオラやプリムラ・マラコイデスなどにも見られ、花の形状なども一

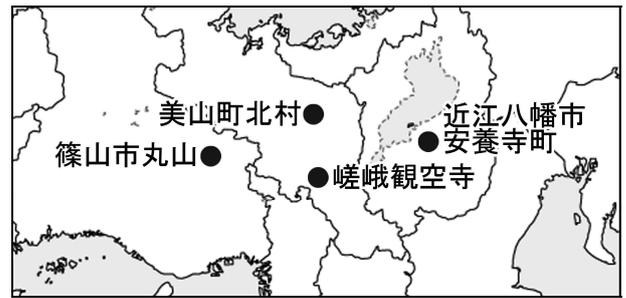


図-1 農家集落の調査位置

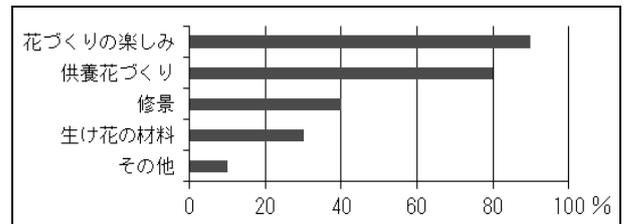


図-2 花づくりの目的

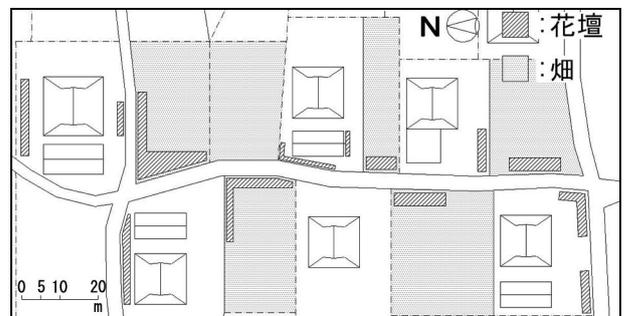


図-3 美山町北村の農家集落の花壇配置<sup>3)</sup>

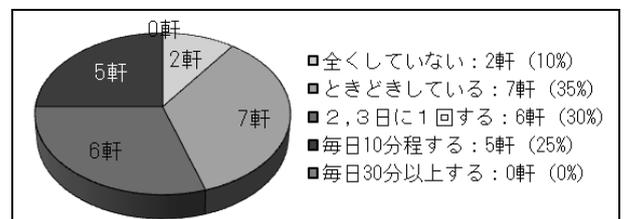
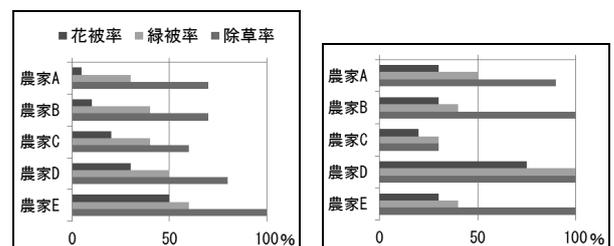
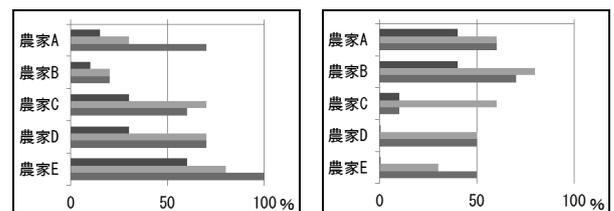


図-4 維持管理時間の比較



近江八幡市安養寺町の農家

嵯峨観空寺の農家



美山町北村の農家

篠山市丸山の農家

図-5 各農家の植栽状態の比較

表-1 調査結果のまとめ及び草種とその特性

	近江八幡市安養寺町					美山町北村					嵯峨観空寺					篠山市丸山					出現頻度	在来種・古来種 ※6	購入種 ※7	自然増殖種																																																																												
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E																																																																																
アンケート調査	栽培者(年齢・性別) ※1																									花づくりの目的 ※2																									年間維持管理費 ※3																									維持管理時間 ※4																								
花壇の状況	70F	50F	70F	30F	70F	80F	50F	70F	70F	70F	60F	60F	50F	60F	70F	70F	70F	60F	50F	—	60F	1	M	S																																																																												
	0	1	1	3	1	1	1	3	1	1	5	5	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	3	1	1	1	1	1	1																																																																				
	5	10	20	30	50	15	10	30	30	60	30	30	20	75	30	40	40	40	10	0.1	0.5	30	40	40	50	60	30	40	40	50	60																																																																					
	70	70	60	80	100	70	20	60	70	100	90	100	30	100	100	60	70	10	50	50																																																																																
春	カスミンソウ <i>Gypsophila elegans</i>	●																				1	M	S																																																																												
	カンパニュラメジウム <i>Campanula medium</i>																						2	M	S																																																																											
	キンギョソウ <i>Antirrhinum majus</i>					●																	1	M	S																																																																											
	キンセンカ <i>Calendula officinalis</i>	●																					1	L	吉																																																																											
	ニゲラ <i>Nigella sativa</i>																						1	M	S	●																																																																										
	ビオラ <i>Viola tricolor</i>																						3	L	S	●																																																																										
	フクロナデシコ <i>Silene pendula</i>																						1	M	S																																																																											
	フスシラズ <i>Calendula spp.</i>																						2	L	S	●																																																																										
	プリムラ・マラコイデス <i>Primula malacoides</i>																						1	L	吉	●																																																																										
	ムシトリナデシコ <i>Silene armeria</i>																						1	M	S																																																																											
	ムラサキハナナ <i>Orychophragmus violaceus</i>																						1	M	S	●																																																																										
	リナリア <i>Linaria bipartita</i>																						1	L	吉	S																																																																										
	アサガオ <i>Ipomoea nil</i>	●		●																			9	H	吉	S	●																																																																									
	アスター <i>Callistephus chinensis</i>																						3	H	吉																																																																											
	アフリカンマリーゴールド <i>Tagetes erecta</i>																						1	H	S																																																																											
インパチエンス <i>Impatiens walleriana</i>																						1	L	S																																																																												
オシロイバナ <i>Mirabilis jalapa</i>																						1	H	S	●																																																																											
キバナコスモス <i>Cosmos sulphureus</i>																						1	H	S	●																																																																											
ケイトウ <i>Celosia argentea</i>	●																					6	H	吉	●																																																																											
センシチコウ <i>Gomphrena globosa</i>																						9	M	S																																																																												
トレンア <i>Torenia fournieri</i>																						3	L	S																																																																												
ハツユキソウ <i>Euphorbia marginata</i>																						5	H	S	●																																																																											
ヒマワリ <i>Helianthus annuus</i>																						7	H	S	●																																																																											
ヒヤクニソウ <i>Zinnia elegans</i>	●																					11	H	吉	S																																																																											
ピンカ <i>Catharanthus roseus</i>																						3	L	S																																																																												
ベゴニア・センバ <i>Begonia Semperflorens</i>																						2	L	P																																																																												
ペチュニア <i>Petunia hybrida</i>																						4	L	S																																																																												
ホウセンカ <i>Impatiens balsamina</i>																						1	M	吉	●																																																																											
ボーチュラカ <i>Portulaca umbraticola</i>																						2	L	S																																																																												
マツバボタン <i>Portulaca grandiflora</i>																						1	L	S	●																																																																											
マリーゴールド <i>Tagetes patula</i>																						5	M	S																																																																												
メランゴジウム <i>Melampodium paludosum</i>																						2	L	S	●																																																																											
コスモス <i>Bidens atrorubra</i>																						8	H	S	●																																																																											
ハボタン <i>Brassica oleracea</i>																						1	M	吉	S																																																																											
夏	アジュガ <i>Ajuga reptans</i>																					1	L	S																																																																												
	アスチルベ <i>Astilbe spp.</i>																						2	M	S																																																																											
	アネモネ <i>Anemone coronaria</i>																						1	L	S																																																																											
	アヤメ <i>Iris sanguinea</i>	●																					6	M	S																																																																											
	アリウム・ギガンテウム <i>Allium giganteum</i>																						1	H	在																																																																											
	アリッサム <i>Lobularia maritima</i>																						3	H	吉	●																																																																										
	イカリソウ <i>Epimedium grandiflorum</i>																						1	L	S																																																																											
	イチハツ <i>Iris tectorum</i>																						1	M	在																																																																											
	エビネ <i>Galanthe discolor</i>																						2	M	在																																																																											
	オオキンケイギク <i>Coreopsis lanceolata</i>																						9	M	S	●																																																																										
	オステオスペルマム <i>Osteospermum spp.</i>																						2	L	S																																																																											
	オダマキ <i>Aquilegia flabellata</i>																						2	M	S	●																																																																										
	カキツバタ <i>Iris laevigata</i>																						1	M	在																																																																											
	ガザニア <i>Gazania rigens</i>																						2	L	S																																																																											
	ガーベラ <i>Gerbera Hybrids</i>																						1	L	S	●																																																																										
カラー <i>Zantedeschia aethiopica</i>																						7	H	S																																																																												
カンパニュラ・グロメラータ <i>Campanula glomerata</i>																						1	H	S																																																																												
キシノウエ <i>Iris pseudoacorus</i>																						6	H	S	●																																																																											
クリソソウ <i>Primula japonica</i>																						1	L	S																																																																												
クレマチス <i>Clematis spp.</i>																						2	H	S																																																																												
シバザクラ <i>Phlox subulata</i>																						6	L	S																																																																												
シャクヤク <i>Paeonia lactiflora</i>																						8	H	吉																																																																												
ジャスターデージ <i>Leucanthemum x superbum</i>	●																					4	H	吉																																																																												
ジャーマンアイリス <i>Iris germanica</i>																						6	H	吉																																																																												
痛根カスミソウ <i>Gypsophila paniculata</i>																						1	H	S																																																																												
シラン <i>Bletilla striata</i>																						8	M	在	●																																																																											
スイセン <i>Narcissus tazetta</i>																						2	M	吉																																																																												
スイセンノウ <i>Lychnis coronaria</i>																						1	H	S	●																																																																											
スノーフレック <i>Leucium aestivum</i>																						1	M	S																																																																												
ダイアンサス・ライオンロック <i>Dianthus spp.</i>																						3	L	S																																																																												
タツナミソウ <i>Scutellaria indica</i>																						1	L	S																																																																												
デューク <i>Dimorphotheca sinuata</i>																						1	L	S																																																																												
チュウリップ <i>Tulipa gesneriana</i> ※8																						3	M	※7																																																																												
バイモ <i>Fritilaria thunbergii</i>																						1	M	S																																																																												
ヒゲナデシコ <i>Dianthus barbatus</i>																						1	M	吉																																																																												
ヒヤシンス <i>Hyacinthus orientalis</i>																						1	L	S																																																																												
フクジュソウ <i>Adonis vernalis</i>																						3	L	S																																																																												
フランスギク <i>Leucanthemum vulgare</i>																						6	H	S																																																																												
プリムラ・ポリアンサ <i>Primula polyantha</i>				</																																																																																																

	近江八幡市安養寺町					美山町北村					嵯峨観空寺					篠山市丸山					頻度	高さ	在・古	購入	増殖種		
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E							
カノコユリ <i>Lilium speciosum</i>																						1	H	在			
カクトラノオ <i>Physostegia virginiana</i>		●	●																			6	H				
カワラナデシコ <i>Dianthus superbus</i>					●	●																6	M	在			
キキョウ <i>Platycodon grandiflorum</i>																						6	H	在			
キクイモ <i>Helianthus tuberosus</i>					●																	1	H			●	
キツネノカミソリ <i>Lycoris sanguinea</i>																						1	M				
ギボウシ <i>Hosta sieboldiana</i>																						5	M	在			
キョウカノコ <i>Filipendula purpurea</i>																						2	H				
ギラルディア <i>Gaillardia pulchella</i>					●																	3	H				
クガイソウ <i>Veronicastrum sibiricum</i>																						1	H	在			
グラジオラス <i>Gladiolus spp.</i>	●					●	●	●	●	●												10	H				
コオニユリ <i>Lilium leichtlinii</i>																						2	H	在			
コヒマワリ <i>Helianthus decapetalus</i>																						7	H				
サボンソウ <i>Saponaria officinalis</i>																						5	H				
サルビア・グラニチカ <i>Salvia guaranitica</i>																						3	H				
サルビア・コッキネア <i>Salvia coccinea</i>																						1	H				
サワギキョウ <i>Lobelia sessilifolia</i>																						1	H				
シロバナバーベナ <i>Verbenaceae bonariensis</i>	●																					5	H				
シロタエギク <i>Senecio cineraria</i>																						1	H		P		
スターチス <i>Limonium sinuatum</i>	●																					3	M				
ストクシア <i>Stokesia laevis</i>	●																					1	M				
ゼニアオイ <i>Malva sylvestris</i>																						1	H			●	
タカサゴユリ <i>Lilium formosanum</i>																						6	H			●	
タチアオ <i>Althaea rosea</i>																						1	H	在			
ダリア <i>Dahlia pinnata</i>																						5	H				
チェリーセージ <i>Salvia sclarea</i>																						1	M				
テッポウユリ <i>Lilium longiflorum</i>																						1	H				
ネベタ <i>Calamintha Nepeta</i>																						3	M			●	
ノコギリソウ <i>Achillea alpina</i>																						2	H				
バーベナ <i>Verbena tenera</i>																						1	L				
バーベナハナデマリ <i>Verbena spp.</i>																						3	L				
ハンゲショウ <i>Saururus chinensis</i>																						1	H	在			
ヒオウギ <i>Belamcanda chinensis</i>																						2	H	在			
ヒメツルシバ <i>Persicaria capitata</i>																						1	L			●	
フッキソウ <i>Pachysandra terminalis</i>																						1	L	在			
ブルーサルビア <i>Salvia farinacea</i>																						1	M				
フロックスパニキュラータ <i>Phlox paniculata</i>																						3	H				
ヘレニウム <i>Helenium autumnale</i>																						1	H				
ペンケイソウ <i>Hylotelephium erythrostictum</i>																						2	L				
ボルドーギク <i>Boltonia asteroides</i>																						2	M				
マーガレットコスモス <i>Steirodiscus euvopoides</i>																						1	H				
マツバギク <i>Lampranthus spectabilis</i>	●																					4	L				
ミズヒキ <i>Polygonum filiforme</i>																						1	M	在		●	
ミソハギ <i>Lythrum anceps</i>																						5	H	在		●	
ムラサキツユクサ <i>Tradescantia reflexa</i>																						3	H				
モナルダ <i>Monarda didyma</i>																						1	H				
モミジバアオイ <i>Hibiscus coccineus</i>																						2	H				
モンズンズ <i>Crococsmia x crocosmiiflora</i>																						3	H				
ヤナギバアザミ <i>Vernonia crinitia</i>																						1	H				
ヤブラン <i>Liriope muscari</i>																						1	L				
ユリ <i>Lilium spp.</i>	●																					3	H	在			
リアトリス <i>Liatris spicata</i>																						3	H				
ルドベキア・フルギダ <i>Rudbeckia fulgida</i>																						7	H			●	
ルドベキア・タカオ <i>Rudbeckia triloba</i>																						5	H			●	
ワレモコウ <i>Sanguisorba officinalis</i>																						3	H				
アスター <i>Aster spp.</i>																						1	M				
オキザリス・ボウイアナ <i>Oxalis bowieana</i>																						1	L				
宿根アスター <i>Aster spp.</i>																						1	H				
キク <i>Chrysanthemum morifolium</i>	●																					13	H	古			
グジャクアスター <i>Perennial aster</i>																						3	H				
ゴールデンビラミッド <i>Helianthus salicifolius</i>																						2	H				
サルビア・レウカンサ <i>Salvia leucantha</i>																						4	H				
シオン <i>Aster tataricus</i>	●																					3	H	在			
シュウカイドウ <i>Begonia grandis</i>																						3	M	古		●	
シュウメイギク <i>Anemone hupehensis</i>																						5	H	古			
タンacetum <i>Tanacetum vulgare</i>																						1	H				
ノジギク <i>Chrysanthemum japonense</i>																						2	M				
ハマギク <i>Chrysanthemum nipponicum</i>																						2	M				
フジバカマ <i>Eupatorium fortunei</i>	●	●																				6	H	在			
赤トトギス <i>Tricvrtis hirta</i>																						5	H	在			
ミゼバヤ <i>Hylotelephium sieboldii</i>																						1	L	在			
ヤハズススキ <i>Miscanthus sinensis</i>																						1	H	在			
リンドウ <i>Gentiana scabra</i>																						2	M				
クリスマスローズ <i>Helleborus orientalis</i>																						4	L	在			
ツワブキ <i>Farfugium japonicum</i>	●																					2	M				
ビデンス <i>Bidens laevis</i>																						1	H				
ヒマラヤユキノシタ <i>Bergenia stracheyi</i>	●																					4	L				
ユリオブスデージ <i>Euryops pectinatus</i>																						1	H				
リュウキンカ <i>Caltha palustris</i>																						1	L				
ローズマリー <i>Rosmarinus officinalis</i>																						1	M				
各農家の品種数	17	8	15	27	20	16	18	30	37	34	24	18	19	54	39	17	39	8	6	15	82	36	22	31			
品種合計	169																										

- ※1 栽培者(年齢・性別)： F=女性(主婦)
- ※2 花づくりの目的： T=花づくりの楽しみ K=供養花 S=修景 I=生花
- ※3 維持管理費： 0=0円 1=1~1,000円 3=1,001~3,000円 5=3,001~5,000円
- ※4 維持管理時間： 0=全くしていない 1=ときどきしている 2=2,3日に1回する 3=毎日30分程する
- ※5 草種の高さ： H=高性種 M=中性種 L=矮性種
- ※6 古来種：日本の自生種ではないが、ウメやアサガオのように古来に持ち込まれ園芸植物として親しまれている植物であり、外来生物法では明治以降に日本に導入された生物を外来種として規定しているため、それ以前に日本に渡来した植物を外来種、自生種と区別して古来種と便宜的に位置づけした。
- ※7 購入種： S=種子購入 P=POT 苗購入
- ※8 チューリップは球根であるが長期にわたり宿根しないので毎年購入されるケースがある。

般に販売されている園芸種とは異なっている。ルドベキア・タカオやコスモスのようにこぼれ種で自然繁殖するものが1,2年草、宿根草を合わせて31種あることが確認できた。農家で長期にわたって栽培されている宿根草とこぼれ種で自然繁殖する草種がローメンテナンスな栽培を可能にしていると考えられる。また1mを超すタチアオイやシオンなど70cm以上に成長する高性種は82種におよび全体の48%を占め、これらの草種が花のボリューム感を演出し集落のフラワーランドスケープを特徴づける要素となっている。

### 3) 花栽培の維持管理の特徴

農家における花栽培の維持管理にかかる時間の比率は図-4に示すように、毎日30分以上花の手入れをすると回答した人は皆無であった。それに対し、1日に10分程度から時々しているといった、適宜に手入れしているというものが18軒(90%)を占めている。全く手入れをしないという項目も2軒(10%)あった。このように農家は時間と手間をほとんど費やさずにフラワーランドスケープを維持していることがわかる。日頃の畑の手入れの合間におこなっているというのが実情である。施肥、散水は植物の生育状況を見ながら適宜行い、最小限の維持管理で花壇が維持されている。図-5は農家のフラワーランドスケープの状況を把握するため、除草率、緑被率、花被率の3つの評価基準を設定し、各農家のフラワーランドスケープを評価したものである。この調査は2011年の7月の最も生育の盛んな時期を選定し、目視でおこない比較した。緑被率(植栽部分面積÷植栽地全面積)は植栽面積に対する栽培されている植物の被度を示している。除草率{(植栽地全面積-植栽部分面積-雑草繁殖面積)÷(植栽地全面積-植栽部分面積)}は雑草除去管理がどれだけ行き届いているかを示しており、除草率の高い農家ほど手入れが行き届いているといえる。花被率(開花している花のボリューム÷緑のボリューム)はその時期に咲いている花の量を示している。各集落には除草率、緑被率、花被率の高い農家が1,2軒あり、集落のフラワーランドスケープを形成する核になるような農家の存在が明らかになった。特に観空寺の農家Dはどの項目も高い値を示している。

### 4) 維持管理費の特徴

維持管理費は図-6に示すように年間1,000円以下の農家が15軒(75%)を占め、年間3,000円以上の農家が4軒(20%)、費用をまったくかけないという農家が1軒(5%)あった。家計調査年報によると、世帯当り園芸支出額は1990年以降6,000円<sup>4)</sup>を下回ったことがなく、それと比較すると農家の維持管理費の低廉性が明らかになった。費用の内訳は、肥料等は農作業用のものが転用されており、ほとんどが花苗、種子の購入費である。年間3,000円以上費用をかけると回答した農家は主に花苗の購入に充てられていた。一方1,000円以下の農家は花苗の購入量は少なく、種子の購入により草花を栽培しているところが多い。種子による花苗の育成は、苗を購入することと比べてはるかに廉価に花苗を生産することができる。表-1に示すように、各集落の花被率の高い4軒の農家の維持管理費は1,000円以下であった。1,000円以下の費用であっても株分や種子による苗生産を行うことで花被率を高く維持している。緑被率、花比率が高く、優れたフラワーランドスケープをつくり出している農家と維持管理費の多少は関連していないことがわかる。

### 5) 観空寺の農家Dにおけるフラワーランドスケープの特徴

調査した花被率、緑被率、除草率が最も高い観空寺の農家Dについてさらに詳細なデータを得るために2010年8月から2011年7月の一年間に毎月追跡調査を行い、緑被率、花被率、草種についてのデータを収集した。調査した花壇は幅1.5m長さ7.5m面積11.25m<sup>2</sup>で道路沿いに設けられている。観空寺の農家Dのフラワーランドスケープを特徴付けているのは①1,2年草27種、宿

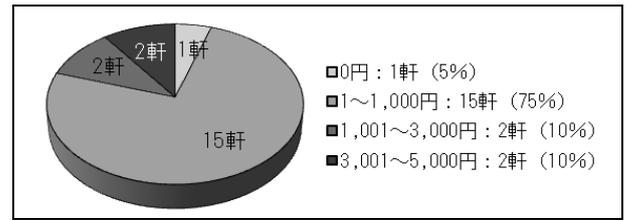


図-6 維持管理費用の比較

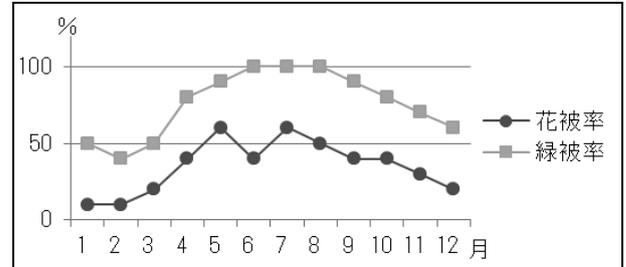


図-7 嵯峨観空寺の農家Dの緑被率と花被率

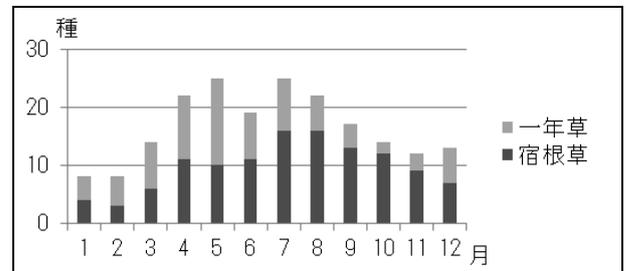


図-8 嵯峨観空寺の農家Dの年間開花状況の変化



(春)

(夏)

図-9 嵯峨観空寺の農家Dの開花状況の比較

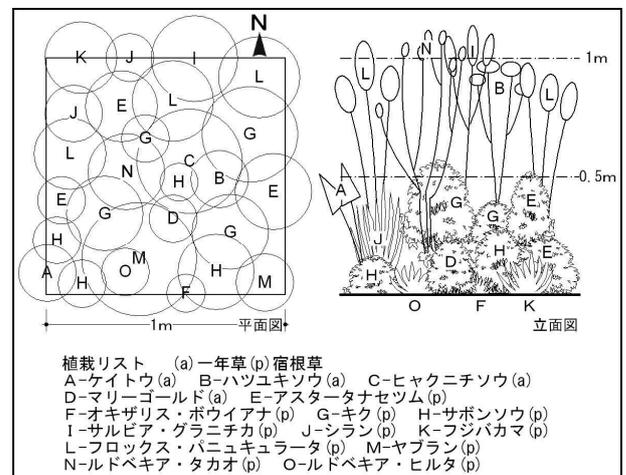


図-10 嵯峨観空寺の農家Dの植栽

根草 40 種、合計 67 種といった草種の多様性、②多くの草種が植え込まれた混植手法、③面積当りの植栽数量が多い高密度植栽の 3 つの要素で花壇が維持されていることである。図-10 の右の立面図に示すように、その時期に開花しているものの足元には次に開花する植物が生育しはじめ、平面的にも立体的にも栽培種で埋め尽くされている状態を、ここでは高密度植栽と定義する。①の草種の多様性は四季それぞれに継続的に花を咲かせるためには、このような多様な草種が不可欠であることを示している。②の混植は枯れたものや増えすぎたものを撤去した後に異なる草種を植え込むことで、バランスのとれた混植が常に維持されている。③の高密度植栽は①、②の結果として高密度に植栽が維持されている。高密度植栽は蒸れによる枯れ死を招き易く一般的に忌避される植栽方法であるが、ここでは適度に一年草が混植され、その入れ替えにより間隙が生じることで風通しが良くなり生育環境が改善されること、高密度でも蒸れによる枯死を起しにくい丈夫な草種だけが淘汰され残っていると考えられる。また結果的に高密度植栽は雑草の侵入を防ぐ効果もあると考えられる。図-7 は観空寺の農家の 1 年間の緑被率と花被率の変化を示したものである。他の農家と比較して緑被率が高いのは、 $m^2$  当りの本数が 27 株という高密度に植栽されているためである。4 月から 8 月にかけてほとんど裸地のない状態を保持しているのは、春から秋にかけて多くの宿根草の高性種が成長し繁茂しているためである。冬期においても 40% 以上の緑被率を維持しているのは、宿根草のロゼッタと 1,2 年草の苗が秋に補植されたためである。図-8 は各月における宿根草と 1,2 年草の開花草種の割合をしめしており、平均すると毎月 17 種類の花が咲いていることになる。花被率は春と夏にピークを示し、5 月、7 月には最多の 25 種の草種が開花している。5 月のピークは秋に補植した一年草や球根類が一斉に開花し、春のピークを形成しているためである。7 月のピークは宿根草が成長し夏から秋へと連続的に開花している様子を示している。夏から秋にかけて 1,2 年草が減少するのは、宿根草が繁茂し一年草を植え込む余地が少なくなるからである。真冬の 12 月から 3 月にかけて花被率は低下するもののリュウキンカやヒマラヤユキノシタなどの冬に開花する宿根草に加え、ハボタンやビオラなどの 1 年草が補植され景観を維持している。図-9 は、春は 1,2 年草や球根類が中心に開花し、夏には宿根草が開花している様子である。図-10 は 15 種類 27 株の草種が複雑に混植されている状況が示されている。開花している株は背丈が高く、その次の時期に咲くキクやアスターが生育しはじめている状況が読み取れる。咲き終わったサボンソウやフロックスなどは背が低くなっている。

#### 4. 考察

##### (1) 農家のフラワーランドスケープの特徴

農家における花づくりは供養花として古くから畑などの一部で栽培され続けていた。花壇や修景として花づくりが盛んになり農家の周辺で栽培されるようになるのは、機械化が進み農作業の場としてのわの機能が不要になり、駐車場や一部が花壇に転用されてからである。また機械化にともない農家の主婦の生活に時間的余裕が生まれ、昭和初期ごろから花づくりが盛んになり、集落のフラワーランドスケープが形成されるようになる。現在、農家のフラワーランドスケープは高齢化した主婦により維持されており、栽培方法も農作物をつくる片手間に草花を栽培し、その規模も農家や畑の道路沿いの手入れが行き届く範囲の面積に限られている。この花壇が道路に沿って点在することで集落に連続性のあるフラワーランドスケープが作りだされている。また栽培されている草種は宿根草が 135 種で全体の 80% を占め、1,2 年草が 34 種、合計 169 種及び、多様な草種が季節ごとに順次開花することで、春から秋にかけて長期間にわたりフラワーランドスケープを

維持している。草種の特徴は高性の種類が 48% を占め、フラワーランドスケープを立体的に演出し、遠方からでも視認できる景観をつくりだしている。日本の風土に適した在来種や古来からの植物が 27% を占め、農家集落のフラワーランドスケープを特徴付ける要因の一つになっている。観空寺の農家 D は他の農家と変わらない年間 1,000 円以下の維持費にもかかわらず、1,2 年草と宿根草の特性を生かすことで、一年をとおして花を咲かせている。嵯峨野の農家 D の品種の多様性、混植、高密度植栽、ローコストといった植栽手法はこの農家の主婦が意図的にデザインし維持しているものではなく、日常生活の一部として花づくりを楽しみながら、植物の自然な生態に即して栽培している、その結果として優れたフラワーランドスケープが形成されていることが明らかになった。

##### (2) 持続可能なフラワーランドスケープ

花壇の面積は平均 10  $m^2$  前後であり、農作業の合間に農家の主婦の楽しみとして、簡単な手間で維持できる程度の規模である。毎年新たな花苗を購入する必要のない丈夫な宿根草や、こぼれ種で自然増殖する草種が、長い栽培の間に選択的に残されることで花壇の自立性を高め、さらに多様な草種が混植されることにより競合して育つことで、生態的な安定性を花壇に与えている。このような農家の日常生活の延長上につくりだされるフラワーランドスケープは農家の知恵として持続可能性を獲得したといえる。

#### 5. まとめ

今回の調査により、春から秋にかけて農村を彩るフラワーランドスケープは、全体の草種の 80% に及ぶ宿根草やこぼれ種で増殖する草種が選択的に残され、またそれらの草種の特性を生かす植物の生態に即した栽培により長年にわたる景観の持続性が保たれていること、植物の生育に熟知し、必要最小限の的確なメンテナンスが施せる農家ならではの方法によるローメンテナンスとローコストで維持管理していることから、その持続可能性を明らかにすることができた。景観的には全体の 1/2 に及ぶ高性種と在来種が農家集落のフラワーランドスケープに独自性を生み出している。それらは農家の知恵とし集積されたものであり、このような知恵を公共公園やまちづくりに生かすことで、フラワーランドスケープの持続可能性を広範囲に応用することができると考えられる。しかし農村においては花づくりの担手である主婦の高齢化、またライフスタイルの変化にともない後継者が育っていないことなど、農家のフラワーランドスケープの知恵もやがて消滅してしまう可能性もあり、その方法を記録しておく必要がある。今回の調査は近畿地方の農家集落のデータであり、地域により自然植生が異なるように、栽培種であっても地域により生育状態は異なるため、今後、各地方の農家集落を調査しデータを収集することで、この持続可能なフラワーランドスケープを幅広く展開する素地を築くことが可能になると考える。

#### 補注及び引用文献

- 1) 進士五十八・鈴木誠・一場博幸編著「ルーラル・ランドスケープ・デザインの手法」学芸出版：24p
- 2) 農家で栽培されている草種の中には長年の栽培により、特に種子繁殖するものは先祖帰りし、園芸種とは異なった形状や違った性質を示すようになるものがある。
- 3) 新谷昭夫 (1990)「京都府美山町における山間村落の景観について」日本建築学会大会学術講演概要集：67-68p を参考のうえ作成した。
- 4) 長谷川教佐 (2006)「日本におけるガーデニング・ブーム—その時期と参加者」駒澤大学紀要第 83 巻

#### 参考文献

ジョン・フレーザー・ハート (1992)：農村景観を読む：大明堂、276pp